

学校法人関西医科大学 社会連携・社会貢献推進基本方針

1 理念

本学は、「慈仁心鏡」の精神及び独創的な知性と豊かな人間性を備え、社会に貢献し得る医療人を育成するとともに、深く医学、看護学及びリハビリテーション学を研究し、広く文化の発展と公共の健康・福祉に寄与するという使命に則り、SDGsの達成にも資する社会連携・社会貢献活動を推進するための基本方針をここに定め、法人、大学、附属医療機関が一体となって学術研究成果の還元や地域住民の健康福祉増進など、具体的な活動に積極的に取り組むこととする。

2. 原則

- (1) 公共性：社会的課題に対して開かれた姿勢を持ち、学術的知見を社会に還元する。
- (2) 持続性：一過性の活動ではなく、継続的・発展的な取り組みを重視する。
- (3) 協働性：地域の住民や自治体、医療機関、教育機関と協働し、取り組みを進める。
- (4) 倫理性：医学的・社会的倫理に基づき、多様な背景や事情を持つ方々に寄り添い、公平性を確保した取り組みを進める。

3. 実践領域

(1) 先進的な医療の推進

がんや難治性疾患の新たな治療につながる基礎研究、臨床研究を推進するとともに、最先端の医療機器を駆使した高度医療を提供する。

(2) 地域医療・福祉の向上やまちづくりへの貢献

地元自治体や医療機関、近隣住民と連携し、持続可能な地域医療・福祉の向上やまちづくりへの寄与をめざすとともに、社会的使命を自覚した医療人の育成を図る。

(3) 健康教育・啓発への貢献

市民公開講座の実施、学校連携強化、予防医療の普及等を通じて、市民や学生の健康意識の向上に寄与する。

(4) 災害医療への貢献

災害医療体制の着実な整備を通じ、北河内二次医療圏域における人命を守る役割を果たす。また、遠隔被災地における職員の災害医療活動を積極的に支援する。

(5) 研究成果の社会的還元と産学官連携の推進

教育・研究活動により得られた知見を産業界や地域社会に還元するとともに、産業界や行政との産学官連携を通じて、医療・健康分野における実践的な課題解決と新たな価値創出に貢献する。

(6) 国際貢献

海外の教育・研究機関及び医療機関との連携を通じて、知の交流と共同研究を促進し、国際社会における医学・医療の発展に貢献するとともに、国際的に活躍できる医療人材の育成を目指す。

(7) 多様な人材が活躍する社会づくりへの貢献

女性や臨床現場から離れている有資格者など、多様な人材が医療・福祉の第一線で活躍できる場の提供を進める。

(8) その他の社会連携・社会貢献

その他、市民の健康や生活の質の向上、社会の健全な発展につながる取組みを積極的に進める。

4. 評価の可視化と継続的改善

- (1) 法人中期計画に基づき、年次計画を策定し、これらに基づく実践を進める。
- (2) 年次ごとに活動評価を行うとともに、内容を公開する。
- (3) 社会ニーズ等の変化に応じ、原則5年ごとに法人中期計画との整合を図りつつ基本方針の見直しを行う。

以上